種を観察しよう

種の観察は、すなわち、あさがおとの出会いの場面です。これから長い期間育てていくあさがおに思いを寄せるために大切にしたい時間です。また、観察の仕方やカードの書き方もここでしっかりと指導したいところです。

「よく見るといろいろな発見がある」「観察って楽しい」という思いをもてるような工夫が必要になってきます。

ここがポイント

観察は植える前に！

種を植える前の日に観察します。種を植える日に観察するとどうしても「早く植えたい」という気持ちが先に立ってしまい、観察がおろそかになりがちです。また、「明日植えるんだ！」という期待感を膨らませることもできます。

ここがポイント

観察は種を１粒、先生と一緒に!

観察する時には、種を１粒だけ渡します。また、「観察カード」を渡す前に、十分に種を触ったり、においをかいだり、よく見たりします。また、観察カード」を書く際には、先生も一緒に書きます。初めて書く「観察カード」ですから、子どもにとってお手本となるような具体的なモデルも大切です。

気付き！

この時間に行う種の観察は、この後、あさがおが結実した時に比べてみる活動につながります。生命の連続に気付く大切な活動になります。

また、「こんな小さな堅い種が、大きなあさがおになってきれいな花を咲かせるんだ」という不思議さにも気付かせていきます。

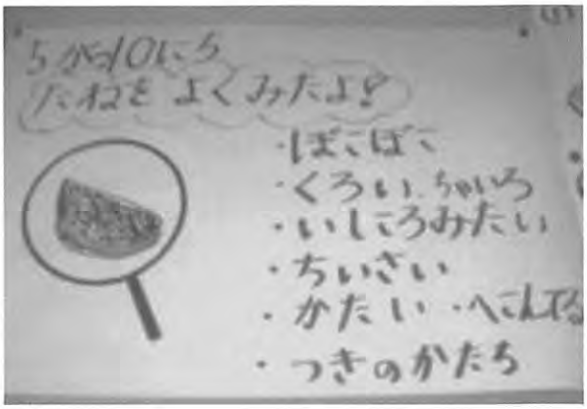
「観察カード」P12に掲載

気付き！

「観察カード」は虫めがねの形にすると大きく描きたくなります。事前によく見たり、触ったりすることで、でこぼこ加減や色の濃さにまで目を向けて描き上げることができます。

子どもが書いた「観察カード」を教室に掲示することも大切ですが、教師がカードから子どもの声を拾ってまとめておくことも大切です。

子どもの「石ころみたいな」「月の形みたい」という表現のよさを「○○さんらしい表現の仕方がとてもいいね。」と価値付たり、「ぼこぼこ」「黒い茶色」という細かいところで観察したよさを「よく見るって、こういうことなんだよ。」と価値付けたりして、学級全体に観察の仕方やカードの書き方を伝えていきます。



Active

カードを書いたら、子ども同士でカードを見合う活動も大切にします。

単元の後半になってくると見通しをもち、子どもたちが進んで交流するようになっていきます。